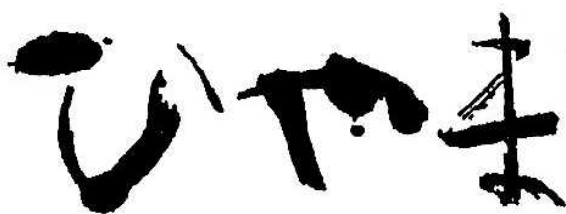


# 第16号



発行

# 檜山教職員組合

定価一年間300円

〒043-0056 江差町字陣屋町86-1

組合員の購読料は  
組合費に含む

TEL 0139(52)0858 FAX(52)1490  
発行責任者 白山 尚  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp



## 2021檜山教組評議委員会

11月26日開催の評議委員会では、「働き方改革」が焦点になりました。白山尚委員長は、「冒頭あいさつで「子どもも教職員も疲れている」と述べ、現場の実態を紐解きながら打開の道を開いていくことを訴えました。経過を振り返り、各支部選出の全評議員が発言しました。とくに、「働き方改革」の推進のもとで生じる現場の深刻な矛盾と苦悩がリアルに語られました。

「緊急事態下の働き方改革で定時退勤がすすめられてきたが、周りに急かされて早く帰らなければならぬ状況になって結局は自宅で仕事をせざるを得ない」といった発言が続きま

# 大事なことを置き去りにしないで

# 働き方改革推進 何のため?

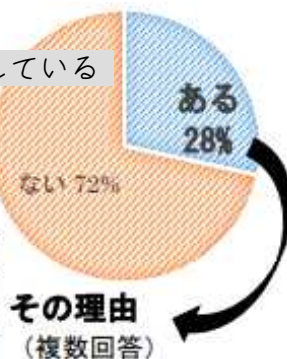
「働き方改革」の流れの中で、いかに先生方が疲弊しているか、実態も報告されました。改革と称して様々な方策が打ち出されてくるが、大事なこと減らさず、逆にその加わり、さらに多忙化を招いている。先生方は疲労困憊状態、かなり苦しんでいると告げる声も。不調を訴える同僚が相次ぎ、「大丈夫

夫だという先生は1人もいない。仕事を続けられるか不安」と深刻な苦悩が吐露されました。職場が疲弊していくほどに先生方の負担が増し、負のスパイラルに入っていると実感しています。合意や納得のないままに進められる「改革」は、結局は現場を萎縮させることにつながります。「職員会議で話し合うが、先生方の願いが通らない」と述べ、「そのうち自分の思いを声にして上げなくなる」との発言は、教育の営みの根幹に関わる問題を提起し、重く響きました。学力調査の点数に拘泥する対応が、学校や職場の在り様に深く影響を及ぼしている実態も明

## 働き方実態全道アンケート

出勤の打刻前や退勤の打刻後に仕事をしている

打刻時間が指定されている	3%
管理職から圧力を受けて(感じて)	6%
上限時間を超えないように	32%
医師との面談を避けるため	10%
打刻ミス	23%
その他	26%
合計	—



## 高教組・道教組が結果まとめ緊急集会

北海道高等学校教職員組合(高教組)と全北海道教職員組合(道教組)が実施してきた「働き方実態アンケート」が集約され、結果がまとめられました。全道1600人を超える教職員から回答が寄せられました。全体的な傾向は次のとおりです。(高教組・道教組「STOP超勤ニュース」より)

①出勤の打刻前や退勤の打刻後に仕事をしている教職員	28%
②記録のない休日出勤	46%
③休憩時間の業務が記録なし	90%
④仕事の持ち帰りがある	73%

「隠れ残業」とも言われる出退勤の打刻の前や後に仕事をしているとの回答が全体の3割近くに上ります。その理由でとくに多いのが「上限時刻を超えないようにするため」で3割強です。(上記グラフ・表) 両教組は「定数改善や業務の大幅削減が示されないまま、時間外在校等時間の上限を超えないように、有形・無形の圧力が強まり、あきらめのような形で労働実態と異なる記録につながっている」と分析します。檜山でも同じ傾向にあることが推測されます。「持ち帰りの仕事が増えた」「土日出勤で仕事をこなすことが増えた」などの声が寄せられています。

両教組は12日、専門家を招いて緊急集会(オンライン併用)を開催。アンケート結果について意見を交流し、今後のとりくみや展望を語り合いました。制度改善や現場での具体策などを整理し、広く呼びかけていくとしています。



全道から1600人が回答

# 改善がされないままに

かされました。加配教員の配置が学力実績に依るとの暗黙の圧力が働き、点数向上のためのとりくみが優先されると言います。どの発言者も、こうした実態が自校だけなのかと不安に駆られ、「どうにかしたいが、どうしていいかわからない」という困惑感を語ります。背景にある競争主義や成績主義、評価主義と一体の管理統制などの政策的動向に目を向けながら、子どもの成長を支える議論と合意づくりが大切です。少なくとも、子ども

の教育にとって大事なことは何かという議論を保障することが求められます。その際、学校の教職員のほか保護者など子どもに関わる関係当事者間の双方向の話し合いは必須です。「改革」

の下に、その仕組みや可能性を放棄してしまおうとは重大な禍根を残すことになりかねません。働き方改革は何のためか。基本的に立脚した検討が重要です。討論では、子どもも支援策の充実、GIGAスクール配の拡充や保障、離島追加など条件整備を求め、意見も出されました。こうした課題と合わせ、議論で明らかにされた実態を踏まえ、行政当局や関係機関への働きかけをすすめていきます。ともよ

裏紙面に教職員アンケートに寄せられた「声」続報





### 教職員アンケート

## 訴え声 続 つぶやき

●先生の特別休暇があるといいなと思う。  
●高齢に合わせた休暇があってもいいのかなと思う。  
●更年期はただイライラしているのとられることが多いが、残念。子どもがいなくて負担が大きい。やむなしだが仕事の軽重がある。自分としてそこが重い。  
●更年期の休暇、あってもいいかなと思う。  
●永年勤続の表彰をいただき休暇もいただけることだったが、コロナでどこへ行けるといふこともなく平日に家にいるの

も落ち着かなく、行使することができなかった。別の形のものになれば...と思う。  
●休むことが悪のような雰囲気はだんだんなくなっていると思ふが、まだ0ではないので、どんどんとりたいたい。  
●校内ではICTと外国語、校外では必要な会議...これを改善できれば先生たちはこんなに苦しまないのになあ。支援員の目に映る先生方の姿。  
●余った年休の買い取り制度が

できないかな(年休を取る理由もなく毎年たくさんあましている)。「働き方改革」はいいのだが、そのために教育活動が縮小される場面も。「限られた時間内ではわかるが向上心が制限されて「それなりの教育」になっっていないか心配だ。スクールサポートスタッフ、教員定数増など教育環境の充実を先行させてほしい。  
●忙しさとそれに対する対教育効果を比べ、本当に必要と思われることを残し慣例にとらわれない。  
●コロナに関する休暇の文言が

ある程度簡単になると取りやすくなると思う。  
**休暇制度知りたい**  
●教員の共働きで、夫婦で育児取れるのか知りたい。  
●別居の父母の介護は介護休暇の対象になるか?  
★子が3歳になるまで育児に専念できる育児休業は、母親、父親のどちらでも取得でき、「配偶者が育児休業している場合」や「配偶者等が子を養育できる場合」であっても取得でき

きます。道教委「職員のための子育てサポートブック」は、「ともに育児に参加しましょう」と呼びかけます。  
★介護休暇の対象は配偶者、父母、子、兄弟姉妹、祖父母、孫、配偶者の父母で、同居・扶養の要件はなく、別居でも取得できます。要介護状態が継続することに、最大6ヶ月、3回まで分割して取得できます。短期休暇は年5日、要介護2人以上は10日以内取得可です。

健康・生活・子育てアンケートに寄せられた「声」の紹介、続報です。その人なりの差し迫ったたいへんさが滲みます。  
●要求を共有し、応答し合って解決の道を探っていきたい。この後、行政などに反映していきます。

### 高齢期・更年期を考えて

●世のニーズにこたえていかなければならぬのはわかっているつもりだが、この年になって、全部ちゃんとできますとは言えない現状。自分をほめながらなんとかがんばっているつもりだ。  
●今はとても働きやすい環境にあるので健康に過ごせているが、今後のことを考えると高齢

# しんどい

## 働きながらの子育て

●子どもの急な熱や仕事で休むことも多く申し訳ないと思ひながら働いている...  
●子どもの行事になかなか参加できないのは少し残念かも。運動会の日程が同じだったりして。  
●平日は子と向き合える時間はあまりない。持ち帰り業務で帰ってから仕事に追われてる感覚だ。休日も翌週の準備をするのがルーティンで、それが当たり前になっていくのがおかしいと思うこの頃...。なるべく週末は仕事から離れたい気持ちだ。  
●娘は小3。自分のことは自分でできるようにしてきたが、もう少し自分の娘と向き合う時間、学習をみる時間をゆとりとりたいたい...。帰って夕食準備して、風呂、洗濯...。バタバタだ...。

●学校の行事と子どもの病気が重なった時など職場のみなさんに申し訳ないなく感じる。  
●子どもの世話をするために定時に帰りたいが、部活動が18時まであり帰れない。土日も部活動があり、妻に子どもをみてもらっているが、非常に申し訳なく思う。なぜこんなにも部活動に時間をとられなければいけないのか!!  
●朝夕の時間、配慮が必要。子が寝るまでの1時間、朝起きてから1時間しか子育ての時間が無い...。  
●土日の部活動などで子どものあずけ先がなくて困る。  
●育児短時間勤務制度を使いたいと希望した先生が「前例が檜山ではないので難しい」と言われていたことがあった(数年前)。来年、保育園の送迎に伴い育児短時間勤務や早出遅出勤務を使わざるを得ないかと考えている。実際にとれるのか心配だ。

●働きながら子育てをする環境は奥尻は全くない。管内的にはよくわからないが、子育てができる環境がもっと整ってほしい。  
●学童、保育所、病児保育などなど。  
●家族(夫、実家...)と保育園の全面協力がないと1歳児は育てられない、というのを痛感している。  
●平日、勤務時間内に帰してほしい。土日、部活動やめてほしい。自分の家庭、子を大事にできない者が他の子どもを教育できない。  
●複数教科を担当し、思った以上の授業時数で空き時間が少ない。その上、生徒会の担当となり、空き時間はほぼ生徒会の仕事で1日が終わることも少なくない。そのため、授業準備は、家に帰り家の仕事をやり、子どもを寝かしつけた後(自分も寝落ちしてしまうため)午前2時や3時となる。そのまま出勤することもたびたびで、かなり辛いと感じることがある。その上、部活にも今はなるべく行かなければいけない状況で、せめて休日ぐらいは子どもと過ごす時間がほしいと思っている。「早く帰りましょう」は、正直、しんどい。ゆっくりに仕事をしたいと思うときもある。

●子ども園のお迎えに間に合わなそうな時は、一度退勤して自宅に子どもを置いてから、また学校に戻って仕事をするところがある。いつでもないが大変。  
●ICTを使うために、時間がかかる。調整・不具合・研修など慣れて軌道になると便利になるのだろうか...。  
●残業手当があると嬉しい。  
●全ての職員がより働きやすい環境を整えていければいい。  
●休みが取れる環境で良い。他の仕事に比べると。  
●教育の仕事に打ち込める条件整備が必須で急務です。「改革」はそのためにこそあるべきです。人間らしい働き方と同僚性に裏打ちされた職場環境と、そんな場をともにめざしたい。

